

通し
狂言
仮名手本忠臣蔵

(八段目より十一段目まで)

まんが
細川
貂々

八段目 道行旅路の嫁入



塩谷家が断絶
したために

小浪と
大星力弥の
縁談は
うやむやになっていました



加古川本蔵の娘小浪と
後妻戸無瀬は

東海道を
京に向かって
歩いていました



不安と希望
を胸に

二人は
力弥のいる山科へ
進んでいくのでした

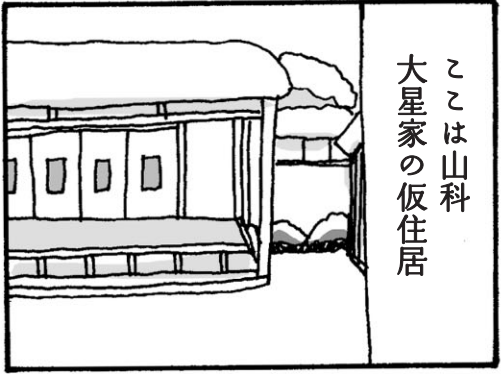


なんとか
小浪の嫁入り
を叶えて
やりたい

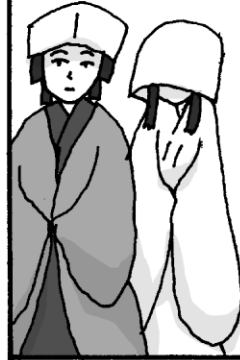
九段目

雪転しの段

山科閑居の段



戸無瀬と小浪が
大星家に到着しました



これはこれは
お二人とも
ようこそ
おいでくださつた



この小浪と
力弥様の
祝言をさせて
いただきたく
参りました



その件ですが
今はこちらは
浪人の身分

つりあわなく
なつたのでこの話は
なかつたことにしましょう



えっ

そんな...



それに...

師直に
ワイロを渡す
へつらい武士の娘と
うちの息子では
つりあわぬ



へつらい武士
とは聞き捨て
ならぬ!!

許婚であるからには
小浪は力弥様の女房!!



フンっそれなら
力弥に代わって
母の私が
離縁する!!



わあ
あ
あ





お母様どうか
力弥様と結婚
させて

他へ嫁入り
する気は
ないか？

力弥様
じゃなきや
イヤ

そなたは先妻の子
だからといって
この縁談を粗略に
したと言われては
生きていられぬ

そなたを殺して
後から母も行く
覚悟は良いか？

ハイ…
夫の家で
死ねるなら
本望です

よく
言いました

いつのまにか家の外に
虚無僧

今のは
虚無僧の尺八に
対して？
それとも…

ナムマミ
ダブツ

御無用!!

はっ



バタン

そこまでするなら
息子と祝言
させましよう

えっ



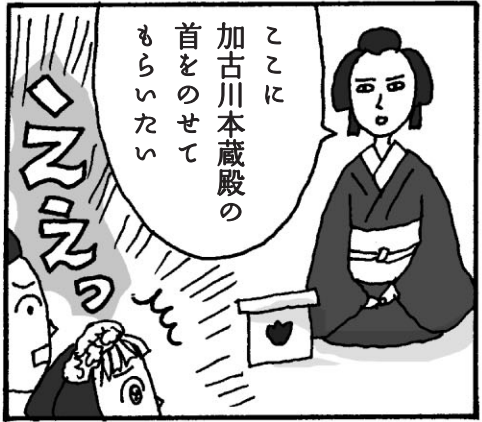
本当ですか?

ここに
引出物を



では
家宝の
この刀を
どうぞ

私が欲しい
のはこれでは
ない



ここに
加古川本蔵殿の
首をのせて
もらいたい

ええっ



判官殿が師直に
斬りつけた時
本蔵殿が抱きとめた
せいで殿は
とどめを
させなかつた
さぞ
ご無念



本蔵殿の
首を持って
こなければ
祝言は認めぬ

サア否か
応か?!



加古川本蔵の
首
進上申す!!

お受け取り
なされよ!!

表にいた
虚無僧が
笠をぬぎすすると





主人桃井若狭助
を救うために
師直にワイロを
渡したことが
判官様を面倒な事件
に巻きこみ

判官様のためを
思つて止めたが
結局切腹と
なつてしまつた



本蔵殿

私たちの本心を
明かしましょう



そしてこのことが
娘の縁談のさまたげに
なつてゐるなら自分の
首を差し出します

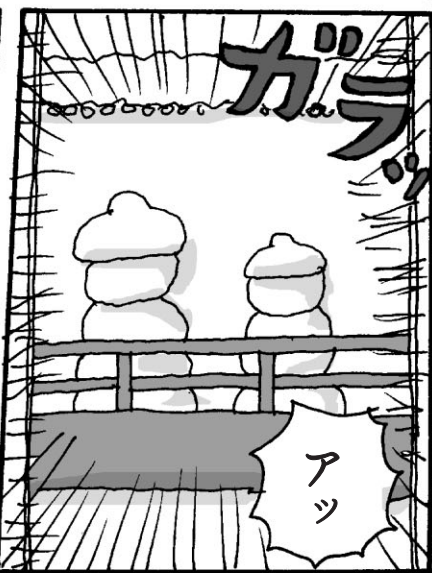
どうか
約束通り
娘との結婚を

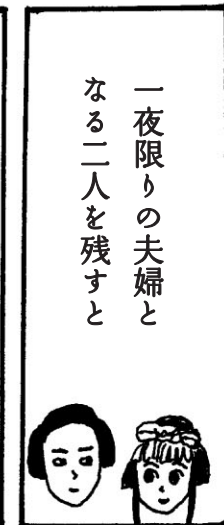


それじゃ結婚しても
小浪がすぐに
後家になるから
あのようなことを？

ええさぞ
憎かつたでしょうね

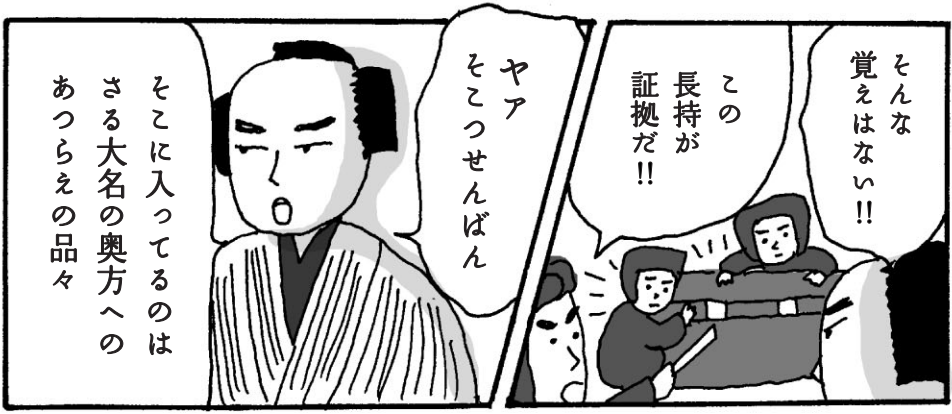
雪で作つた二体の五輪の塔
仇を討つた後は他の主君に
仕えず消える覚悟





十段目 天河屋の段



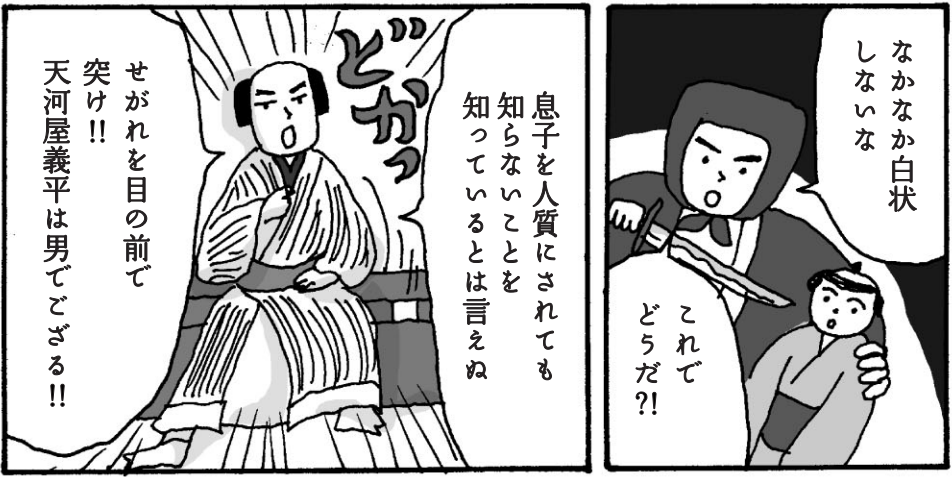


そんな
覚えはない!!

この
長持が
証拠だ!!

ヤア
そこつせんばん

そこに入ってるのは
さる大名の奥方への
あつらえの品々

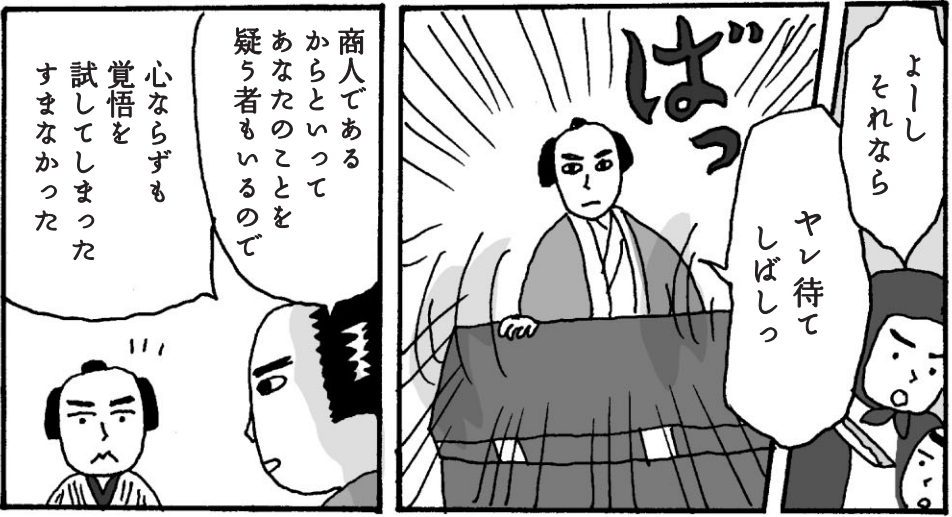


なかなか白状
しないな

これで
どうだ?!

息子を人質にされても
知らないことを
知っているとは言えぬ

せがれを目の前で
突け!!
天河屋義平は男でござる!!



よし
それなら

ヤレ待て
しばしっ

はっ

商人である
からといって
あなたのことを
疑う者もいるので

心ならずも
覚悟を
試してしまった
すまなかつた

その時、店の門口では

おそのが了竹から
離縁状を盗んで
天河屋を
訪れます



もう
しばらく
実家にいる
ように



おそのは泣く泣く
店を後に
しますが



何者かに
捕えられ
髪を根元から
切られたうえ
離縁状も盗まれます



今までのお世話

お礼は言ひ
つくせません

これは寸志です



離縁されても
再婚しないという
おそのの心

討ち入りの頃には
髪ものびるだろう
から復縁すると
良いだろう



これは...

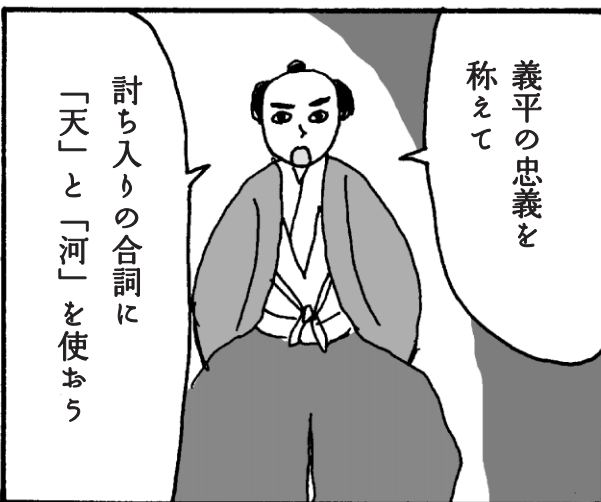


おその



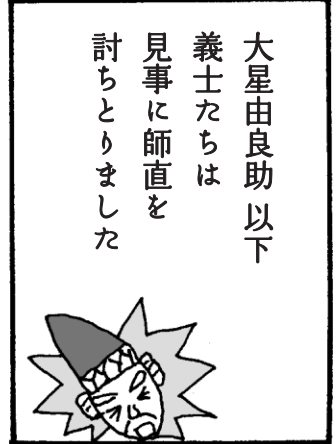
義平の忠義を
称えて

討ち入りの合詞に
「天」と「河」を使おう

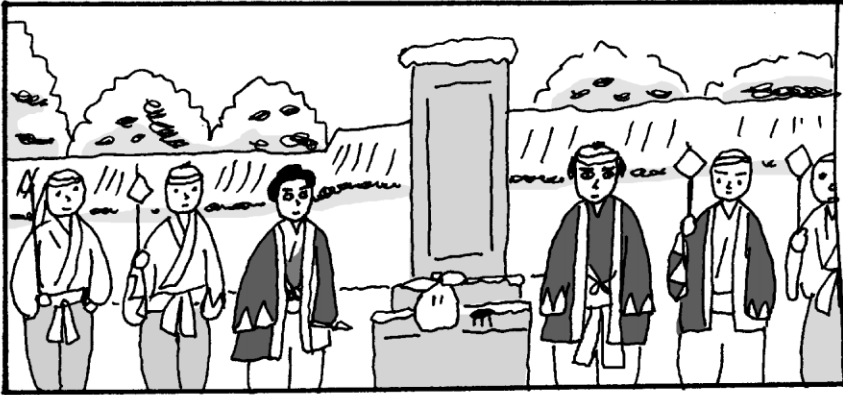


十一段目

花水橋引揚より
光明寺焼香の段



判官の菩提所



方々
お一人ずつ
ご焼香を

まずは師直を
生けどりにした
矢間殿から
どうぞ

二番目は
由良助殿
どうぞ

あ、いや
まだ先に
焼香をする
者がいる

これが
二番目の
忠臣だ

由良助が取り出したのは
早野勘平の形見の財布

草葉の陰でさぞ
喜ぶと思ひ
ます

勘平の義理の兄
平右衛門が代わりに
焼香するのでした